

全国の情報は国立感染症研究所感染症情報センターホームページにてご覧ください。 <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

インフルエンザ (新型インフルエンザ) 情報

インフルエンザ患者数は県内の内科と小児科の医療定点 (199 か所設置) からの報告によるものですが、現在はほとんどが新型インフルエンザ患者と考えられています。インフルエンザの定点あたり患者数は **16.50 人** (先週 8.97 人) と増加して、県全体としても注意報レベルである定点あたり 10 人以上となりました。

地域的にも全県的に拡大しており、神戸市、尼崎市、伊丹保健所管内、朝来保健所管内で注意報レベルの 2 倍にあたる定点あたり 20 人以上、姫路市、西宮市、芦屋保健所管内、宝塚保健所管内、明石保健所管内、加古川保健所管内及び加東保健所管内で注意報レベルである定点あたり 10 人以上となっています。

患者の年齢分布は 10 歳未満が 41% (先週 41%)、10 歳代が 53% (同 50%)、20 歳以上が 6% (同 9%) となっており、10 歳代の患者が全体の半数を占めています。中でも 10 歳代前半である 10-14 歳が全体の 46% となっています。

県内の学校でのインフルエンザによる学級閉鎖等の状況は、休校 5 校 (前週 7 校)、学年閉鎖 84 校 (31 校) 及び学級閉鎖 242 校 (131 校) の合計 331 校 (先週は 169 校) と、学年閉鎖、学級閉鎖が増加しました。社会福祉施設等 (保育所を除く) でのインフルエンザ集団発生状況も 51 施設 (先週は 34 施設) と増加しています。詳しくは兵庫県のホームページの新型インフルエンザ記者発表資料をご覧ください。

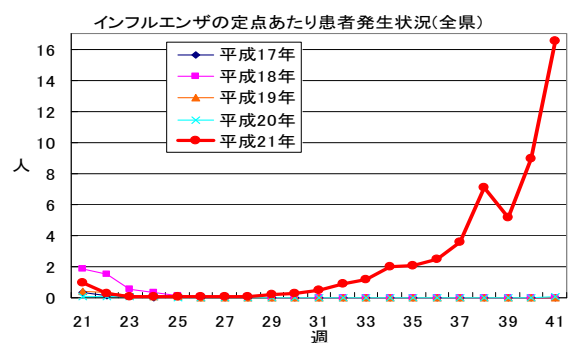
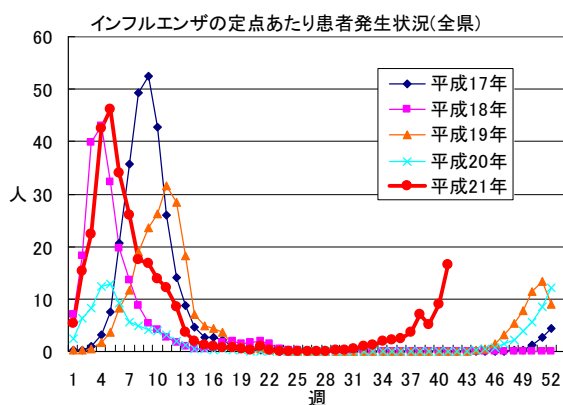
<http://web.pref.hyogo.jp/contents/000138024.pdf>

都道府県別では北海道、埼玉県、神奈川県、愛知県、大阪府、福岡県及び沖縄県にインフルエンザ流行の警報レベル (定点あたり患者数 30 人以上) の保健所が、兵庫県など 21 の都府県に注意報レベル (定点あたり患者数 10 人以上) の保健所があります。

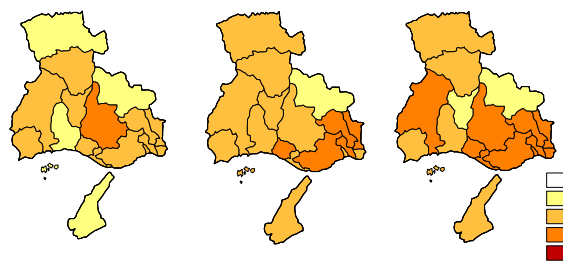
新型インフルエンザの予防として、手洗い、うがい、咳エチケットの励行、マスクの着用など、インフルエンザに罹らない、広げない対策が重要です。また、感染が疑われる場合は早めの受診が重要です。受診に際しての注意点等は次のホームページをご覧ください。

<http://web.pref.hyogo.jp/contents/000138024.pdf> (兵庫県新型インフルエンザ記者発表資料)

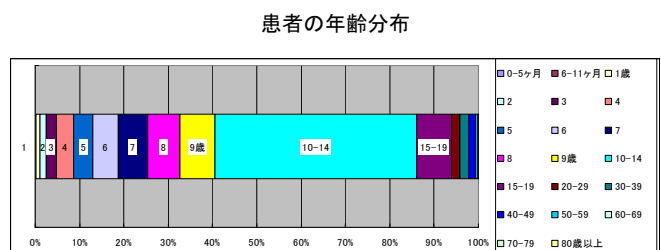
<http://web.qq.pref.hyogo.jp/hyogo/> (兵庫県医療機関情報システム)



(左のグラフの部分拡大図)



(例年の地域別患者数を基準に流行状況を色分けしています)



新型インフルエンザに関する情報は次のホームページ（HP）でもご覧ください。

- ・厚生労働省のHP (<http://www.mhlw.go.jp/>)
- ・厚生労働省：新型インフルエンザ最新情報 (<http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/index.html>)
- ・国立感染症研究所感染症情報センターのHP (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)
- ・兵庫県のHP：新型インフルエンザ対策について (<http://web.pref.hyogo.jp/ac02/influenza.html>)

定点あたり患者数の上位 10 位の疾病

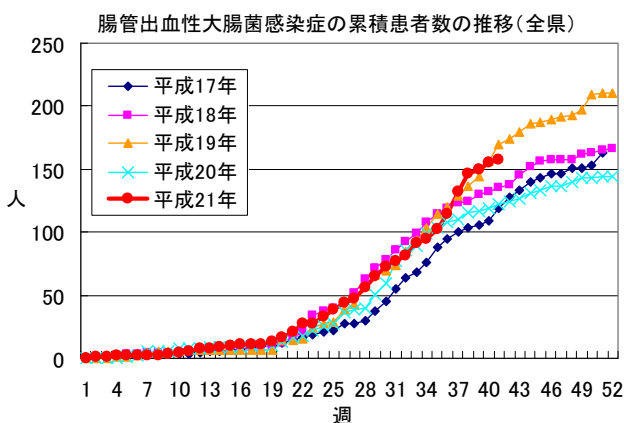
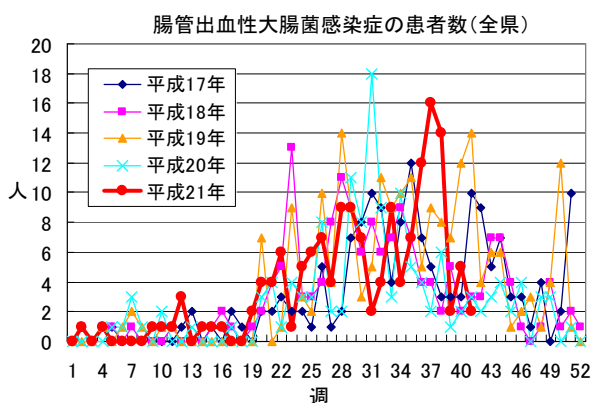
	疾病名	定点あたり患者数		増減		疾病名	定点あたり患者数		増減
		今週	先週				今週	先週	
1位	インフルエンザ	16.50	8.97	+7.53	6位	ヘルパンギーナ	0.26	0.34	-0.08
2位	感染性胃腸炎	2.89	2.73	+0.16	7位	流行性角結膜炎	0.26	0.26	+0.00
3位	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	0.46	0.45	+0.01	8位	水痘	0.24	0.56	-0.32
4位	突発性発しん	0.41	0.56	-0.15	9位	手足口病	0.17	0.16	+0.01
5位	流行性耳下腺炎	0.35	0.44	-0.09	10位	咽頭結膜熱	0.07	0.05	+0.02

全数把握感染症（すべての医療機関から報告を求める感染症です）

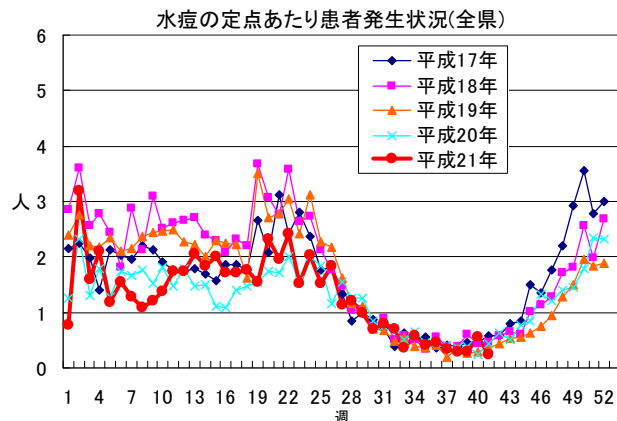
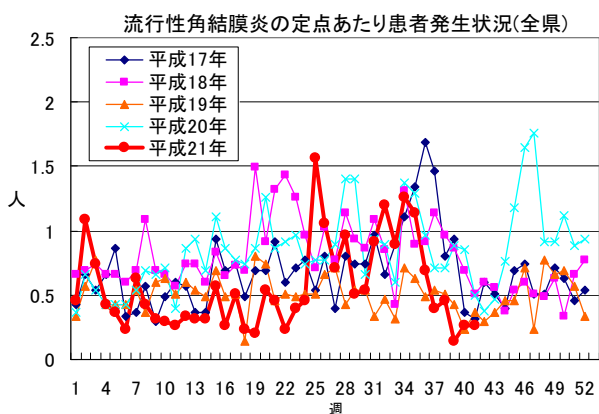
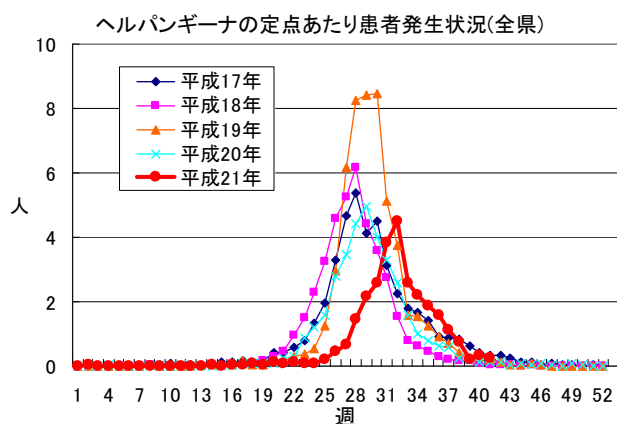
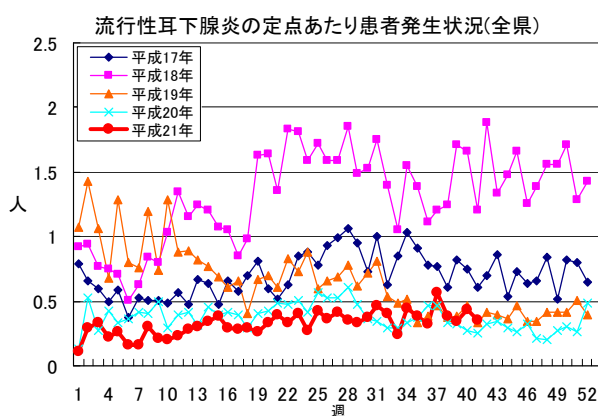
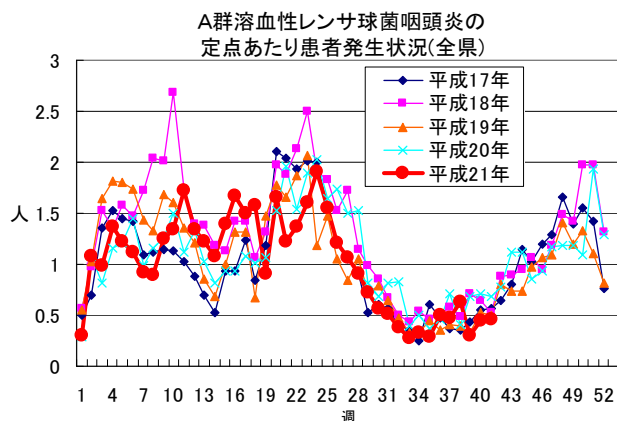
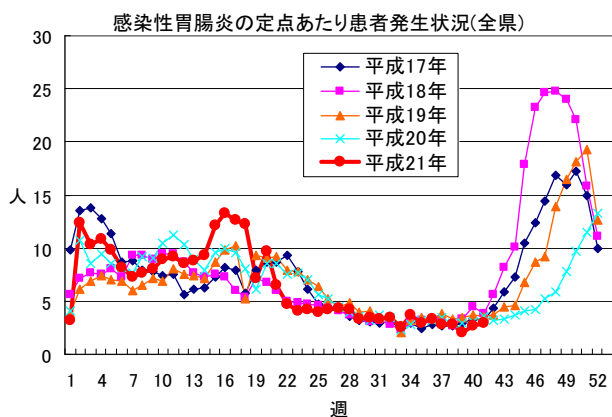
1類感染症	報告はありません。
2類感染症	結核 13名 （神戸市 9名、尼崎市 2名、姫路市 1名、西宮市 1名）
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 3名 （姫路市；O157 VT1+ 2名、西宮市；O157 VT1+VT2+ 1名）
4類感染症	報告はありません。
5類感染症	アメーバ赤痢 3名 （尼崎市 1名、姫路市 2名）、 後天性免疫不全症候群 2名 （無症候性キャリア）
追加報告	腸管出血性大腸菌感染症 1名 （神戸市；HUS）、 結核 4名 （姫路市 1名、加古川保健所管内 2名、福崎保健所管内 1名）、 日本紅斑熱 2名 （洲本保健所管内 2名）、 レジオネラ症 1名 （姫路市）、 後天性免疫不全症候群 1名 （AIDS）

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の患者数が今週 **3人** 報告されました。また、神戸市からは 40 週の追加として重症化例である HUS（溶血性尿毒症症候群）の発症例が報告されています。例年夏場を過ぎても患者が多数報告されていますので十分な注意が必要です。食肉類は生食を避け、十分に加熱して食べること、調理の際の衛生管理に留意すること、手洗いをしっかりとすることなどが重要です。



目で見える動向（県内）



この週報は兵庫県立健康科学研究所：健康科学研究センターホームページ <http://www.hyogo-iphes.jp/> にも掲載しています。
 また、<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html> から国立感染症研究所感染症情報センターの週報(IDWR)がダウンロードできます。